



WorkWithPlus

リリースノート

バージョン :	6.2
作成日 :	2013 年 3 月 7 日
互換性 :	GX X Ev1 U5、GX X Ev1 U6、GX X Ev1 U7、GX X Ev1 U8、GX X Ev2



目次

範囲フィルタ	3
プレビュー機能の改善	4
項目属性および変数のセキュリティ (高度なセキュリティおよび GAM の場合)	5
Auto Prompt	6
Excel ファイルの拡張子	7
Grid オブジェクトに対する DataSelector 生成	8
項目属性の動的なデスクリプション	9
ライセンスの有効期限の表示	10
WorkWithPlus のアンインストール	11
項目属性および変数の DatePicker の非表示	12
トランザクション内の Button Class の問題	12
複雑な主キーの Association Selection の問題	12

新機能

範囲フィルタ

「範囲フィルタ」という名前のフィルタが新たに追加されました。このフィルタを使用すると、フォーム上に 2 つの検索フィールド（ある値からある値までの範囲を指定）を追加し、実行時にユーザーは、これら 2 つのフィールドに指定した値の範囲内にあるレコードを検索することができます。

次の図は Date タイプの項目属性（PersonBirthDate）の範囲フィルタを示しています：

```
PersonBirthDate - Range (PersonBirthDate >= &PersonBirthDate when not &PersonBirthDate.IsEmpty());
```

検索対象 誕生日 ▼ 値 / / 28 ~ / / 28

このフィルタは、Character、Numeric、Date および DateTime タイプの項目属性に設定することができ、[WWP Configuration]>[Filters]ではそれぞれの既定フィルタを設定することができます。

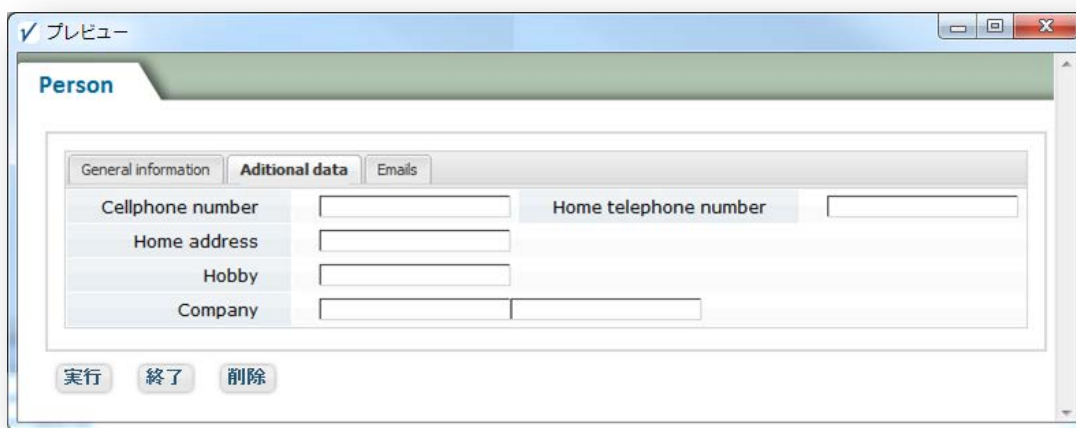
また、一部のフィルタ（標準フィルタまたは動的演算子付きのフィルタ）を範囲フィルタに変換することも、またはその逆に変換することもできます。目的のフィルタを右クリックして、['範囲フィルタ']に変換]または['標準フィルタ']に変換]を選択するだけです。

プレビュー機能の改善

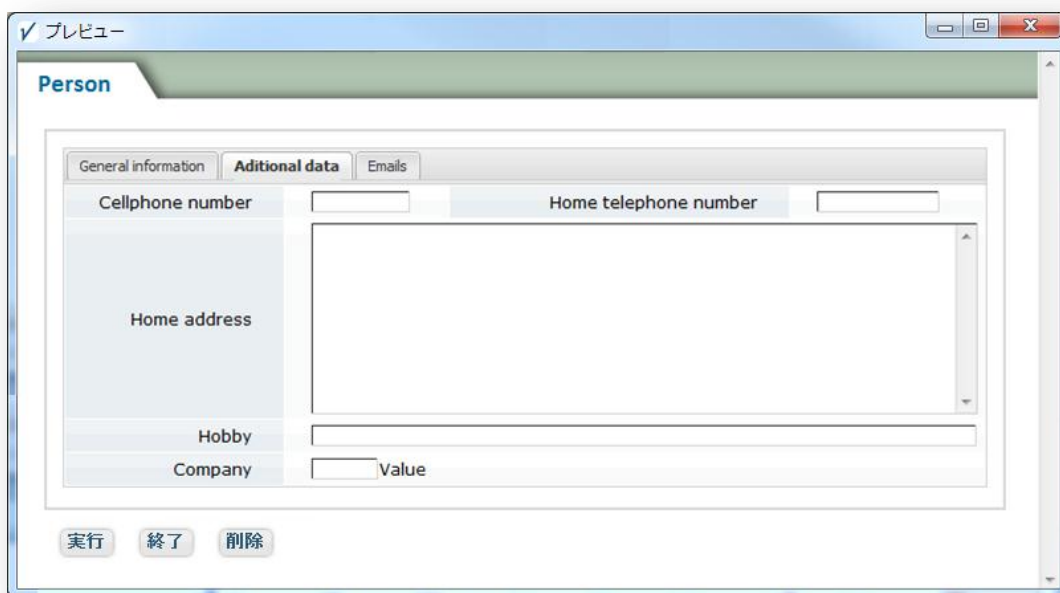
プレビュー機能にいくつかの改善がありました。改善点は次のとおりです：

- 実際のフィールド（項目属性または変数）サイズが表示されるようになりました。
- フォーム内のユーザー領域の場所が表示されるようになりました。
- 読み取り専用フィールド（項目属性および変数）は編集可能なフィールドと区別されるようになりました。

以前のバージョンのプレビュー：



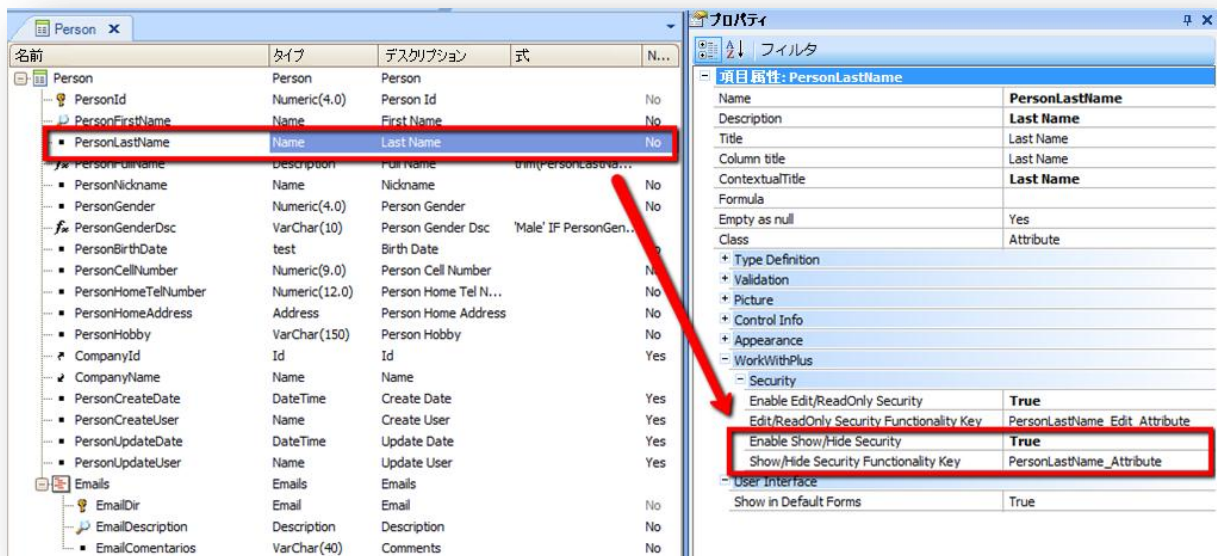
現在のバージョンのプレビュー：



項目属性および変数のセキュリティ(高度なセキュリティ および GAM の場合)

項目属性および変数にセキュリティを追加する機能が追加されました。項目属性のセキュリティは 2 種類あります：

- Enable Show/Hide Security** : アプリケーションの管理者はこの項目属性が表示されるロールを設定することができます。その項目属性を表示するためのアクセス権がないユーザーの場合、対象の項目属性はそれが表示される (ColumnsSelector、View、Prompt およびテンプレートを使って作成された Web パネルを含む Transaction、Selection、ExtraSelection) すべての Web フォーム上で自動的に非表示となります。
- Enable Edit/ReadOnly Security** : アプリケーションの管理者はセキュリティが設定された項目属性に対して、編集可能または読み取り専用のロールを設定することができます。

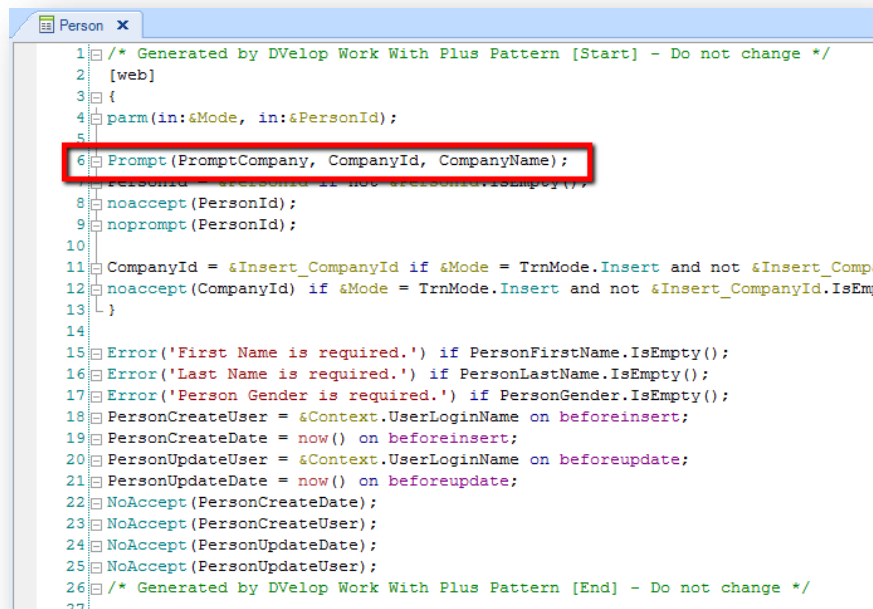
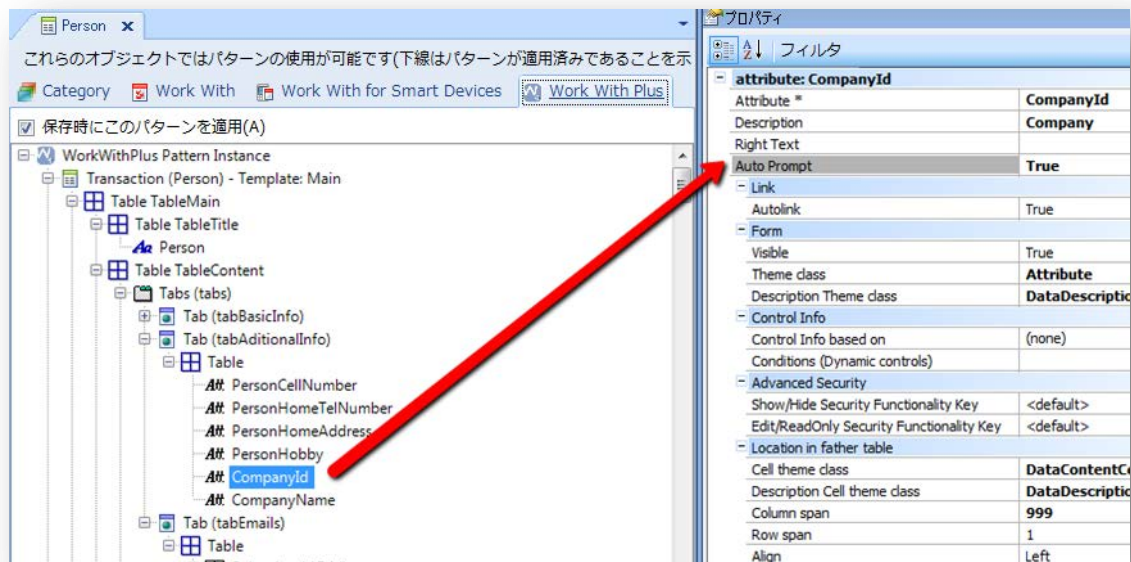


重要 : WorkWithPlus は項目属性のセキュリティを実装するために「Enable」と「Visible」の GeneXus コマンドを使用します。GeneXus のこれらのコマンドは、熟練したユーザーが実行中のアプリケーションの HTML を詳しく調べ(たとえば、Internet Explorer で F12 キーを押します)、このセキュリティを侵害する可能性があるという、懸念があります。

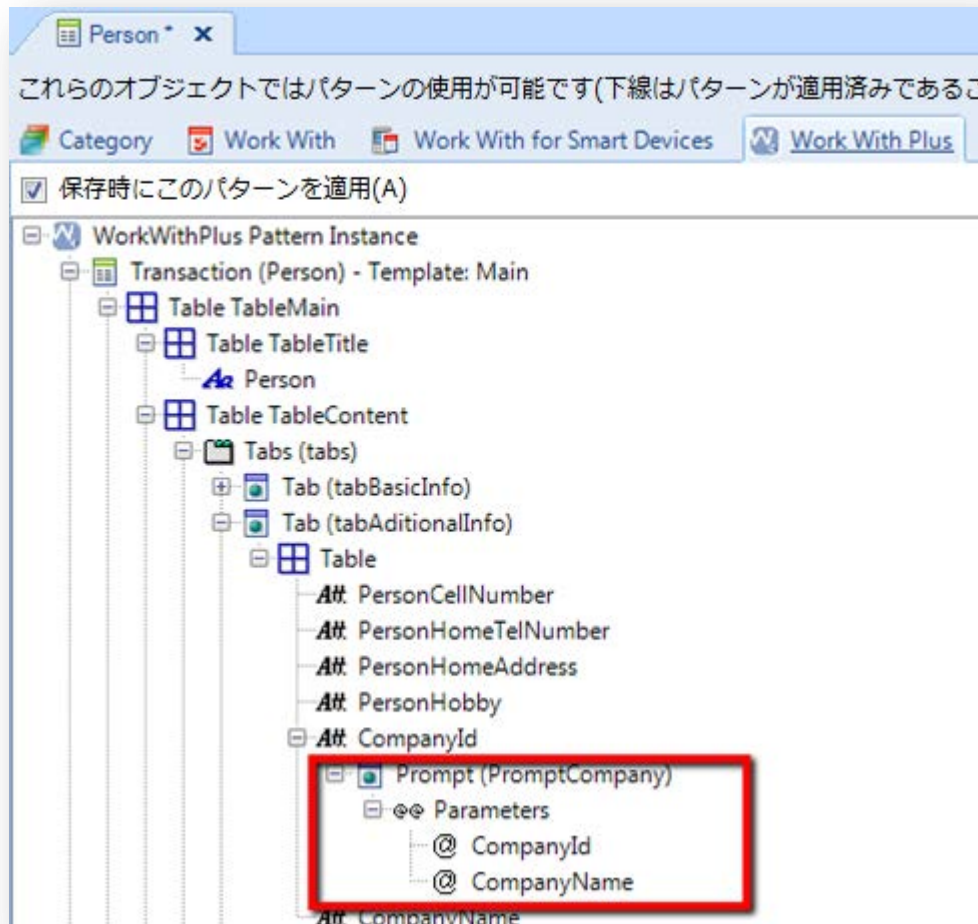
これは、高度なセキュリティと GAM セキュリティ + WorkWithPlus で利用可能です。

Auto Prompt

トランザクションのすべての外部キーに対して、必要なプロンプトルールを自動的に生成する機能が追加されました。項目属性には、「Auto Prompt」という名前の新しいプロパティが追加されています。外部キーが複数の項目属性で構成されている場合、それらのいずれかの [Auto Property] が [True] である場合、WorkWithPlus はプロンプトルールを追加します。



また、WorkWithPlus はインスタンス内の Prompt オブジェクトを手動で追加する機能も提供しています。任意の項目属性を右クリックし、[追加]>[Prompt] と選択します。次にコールするプロンプトとパラメータを設定します。



Excel ファイルの拡張子

生成される Excel ファイルの拡張子を指定できる機能が追加されました。これは、[WWP Configuration] > [Standard Actions] > [Export] ノードの [Excel File Extension] プロパティで指定することができます。

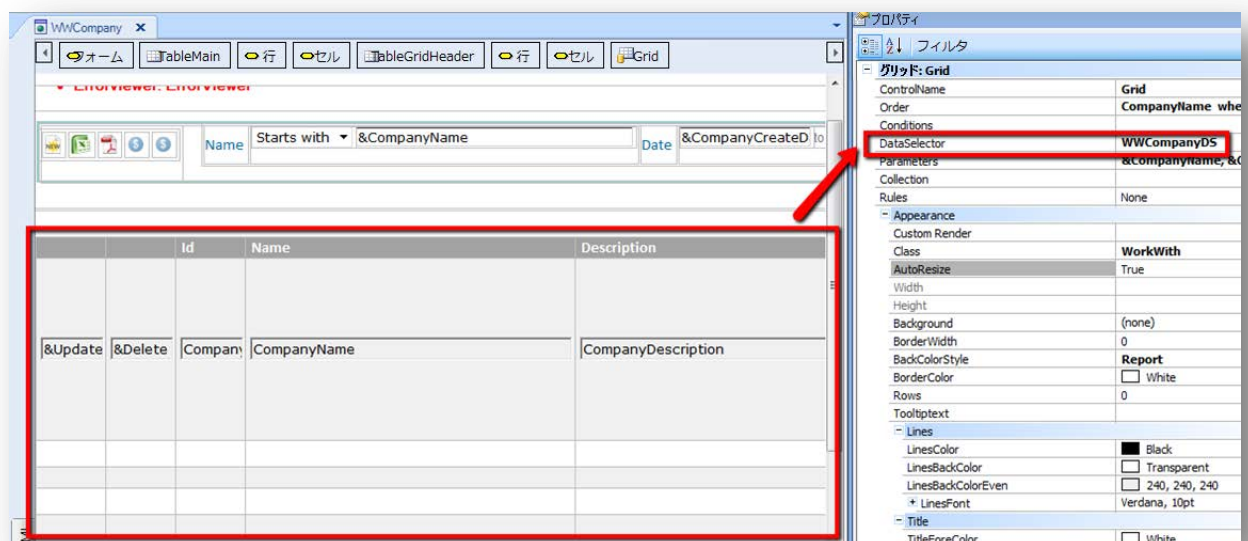
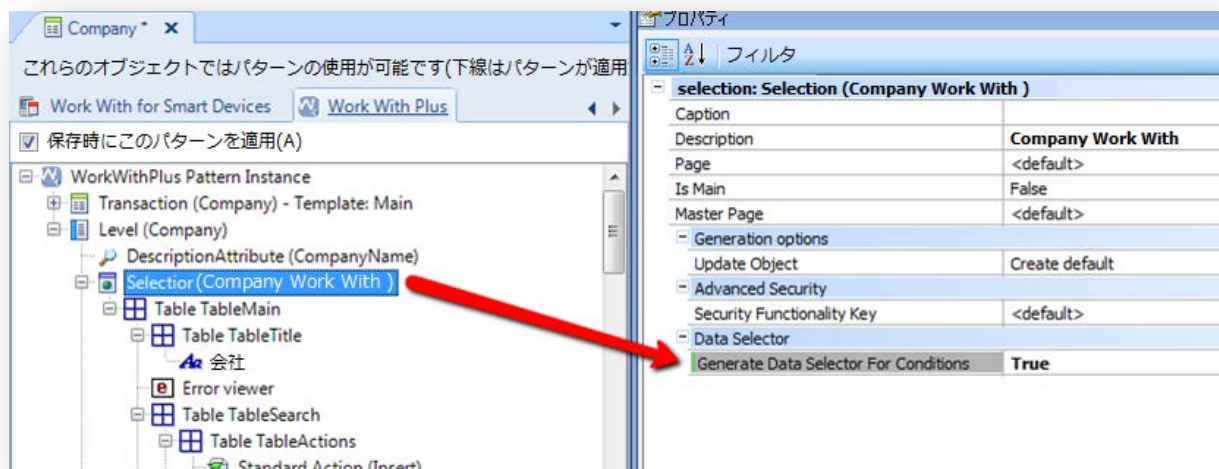
以前のバージョンの WorkWithPlus で使用されていた値は XLS で Jakarta.POI ライブラリを使用していました。このバージョンでは、XLSX 拡張子付きのエクспортファイルを生成するように選択することができ、EEPlus ライブラリ（GeneXus X のインストーラに含まれています）を使用します。

重要： この機能は次のバージョンの GeneXus にのみ対応しています：.NET および Ev2 U1 以降。

Grid オブジェクトに対する DataSelector 生成

すべてのフィルタおよび Grid オブジェクトに対する自動条件を含む DataSelector を生成する機能が追加されました。

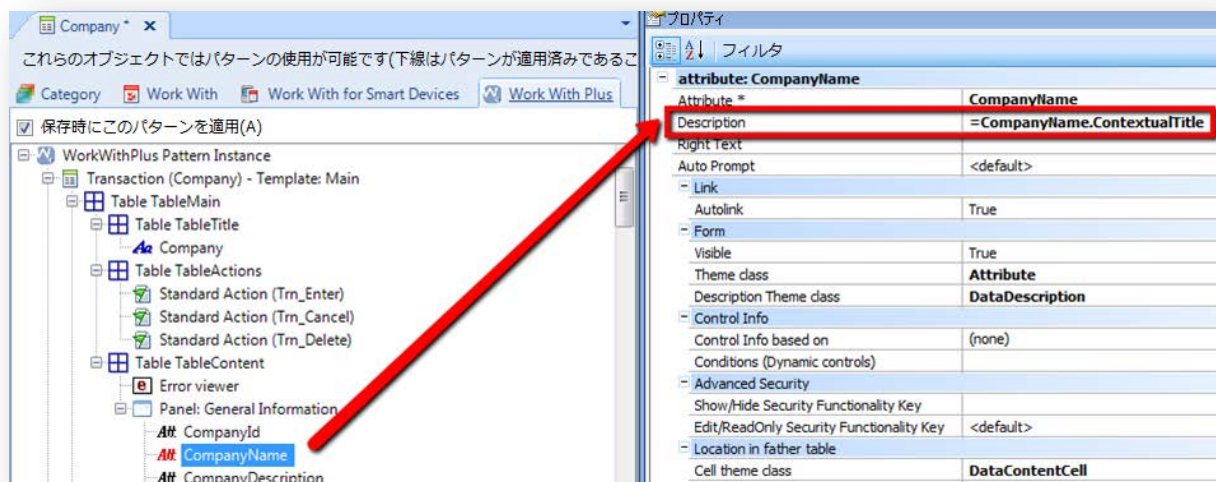
Grid オブジェクト(Selection、Prompt、GridTab) には、[Generate Data Selector for Condition]という名前の新しいプロパティがあります。[WWP Configuration]> [Template]と選択して表示されるプロパティでも DataSelector の自動的に条件を含めるかどうかを指定することができます ([Include Automatic Conditions In Data Selector])。



項目属性の動的なデスクリプション

すべてのオブジェクト（Transaction、Selection など）内の項目属性ノードに対して動的なデスクリプションを使用できる機能が追加されました。項目属性の定義から取得した値（例：'Name'）を割り当てる代わりに、`'=CompanyName.ContextualTitle'`といった動的な値を割り当てることができます。この新しいタイプのデスクリプションは、[WWP Configuration]> [Labels]と選択して表示される [Dynamic Attribute Description] という名前のプロパティで設定することができます。

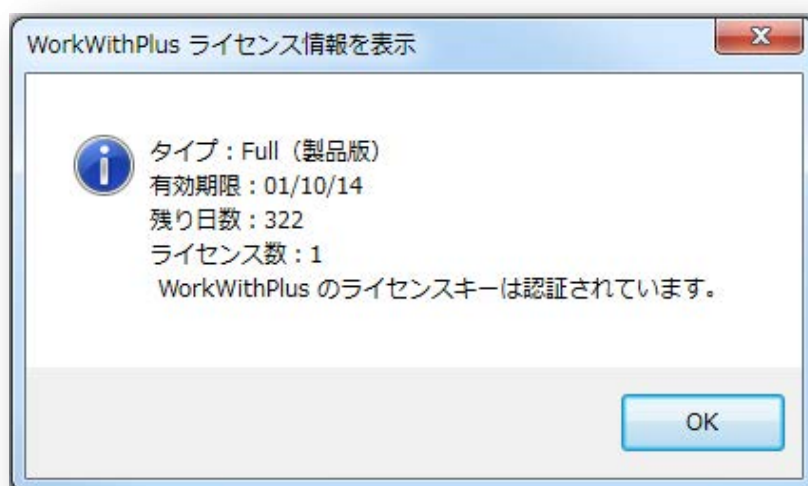
既に作成済みのナレッジベースがあり、動的なデスクリプションを使用したい場合、このプロパティを変更し、「インスタンスの更新」を行う必要があります。既定値（項目属性の定義と同じ値）の [Description] プロパティを持つ、すべてのオブジェクト内のすべての項目属性ノードが自動的に更新されます。インスタンス内で手動で変更した項目属性は手動で「ATT.Title」、「ATT.Description」などに変更する必要があります（[WWP Configuration]> [Labels]と選択して表示される [Grid Attribute Description] または [Plain Attribute Description] プロパティの値により異なります）。



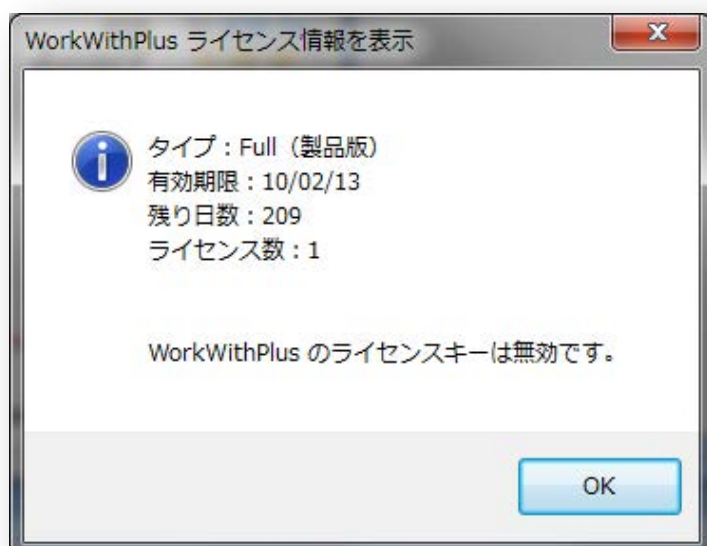
ライセンスの有効期限の表示

「WorkWithPlus ライセンス情報を表示」ウィンドウ内にライセンスの有効期限の情報が追加されました。このオプションを利用して、ライセンスが正しく認証されているかを確認することができます。

ライセンスが正しく認証されている場合：



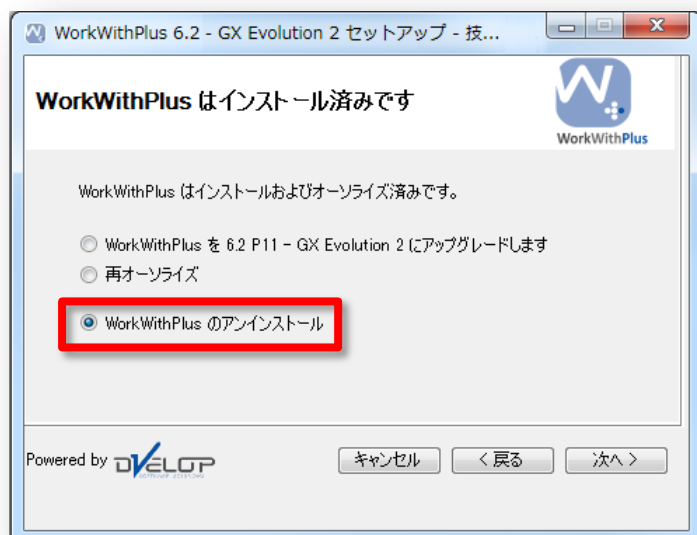
ライセンス認証にエラーが発生した場合：





WorkWithPlus のアンインストール

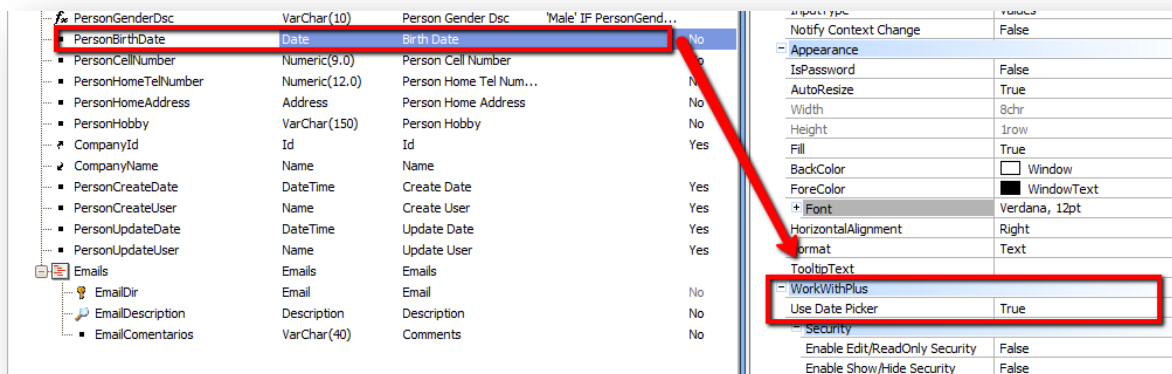
GeneXus から WorkWithPlus をアンインストールする機能が追加されました。このオプションは、インストーラで使用可能です。



重要： WorkWithPlus の製品版をアンインストールする場合、予めライセンスをアンインストールする必要があります ([ライセンスのアンインストール](#))。

項目属性および変数の DatePicker の非表示

DatePicker を非表示にする機能が追加されました。これは項目属性とドメインで使用可能で、タイプは [Date] または [DateTime] として定義する必要があります。



修正済みの問題

WorkWithPlus 6.2 - Preview 2

トランザクション内の Button Class の問題

トランザクション内のアクションが条件を持ち、かつボタンであった場合に発生していた問題が解決しました。これは、ボタンが無効になっている場合、WorkWithPlus は適切なクラスを割り当てられないという問題でした。

複雑な主キーの Association Selection の問題

2 つまたはそれ以上の項目属性によって構成される主キーを持つ Association Selection の対象トランザクションで発生していた問題が解決しました。これは、関連トランザクションのキー項目が対象となるトランザクションに表示される場合、関連トランザクションと同じ順序で主キー項目属性を持つ必要があったため、それ以外の順序である場合、期待どおりに動作していないという問題でした。